

2026.5.1
vol.105

かわら版

ご自由にお持ち帰り下さい

もっといきいき健康に！ 地域がつながる医療と介護を目指して



絵/ザ・キャビンカンパニー

Contents

- リハビリテーション部の新人教育について 2
- 白杵病院看護部の電子カルテを活用した業務改善の取り組み～電子カルテを制する者は、業務を制する～ 3
- 新任医師紹介 3
- 樺～たすき～ 豊後大野市消防本部 消防長 宗岡 幸二氏 4
- インフォメーション 4

リハビリテーション部の新人教育について

キーワード…少ないストレス、優しさ、情熱、新人教育研修ガイドライン

帰巖会統括リハビリ部長 石丸 知二

リハビリテーション（以下、リハビリ）医療の現場において、新人職員がプロとしての第一歩をどのように踏み出すかは、その後のセラピスト人生を左右するだけでなく、提供される医療の質に直結します。当法人リハビリ部では、これまで培ってきた教育ノウハウを統合し、「新人職員研修ガイドライン」を策定しています。

このガイドラインの最大の目的は、「教育のばらつき」をなくすことです。どの部署に配属されても、全ての新人職員が一定水準以上の質の高い指導を受け、着実にステップアップできる環境を組織で提供しています。

1 「考える力」を育む指導

指導の現場では、マニュアルを一方的に説明して終わるような形式的な教育を排しています。新人が直面する課題に対し、「なぜその評価が必要なのか」「この動作分析から何が読み取れるか」といった問いかけを行い、じっくりと「考える時間」を提供します。答えをすぐに与えず、自律的な思考プロセスを尊重することで、現場での応用力が効くプロへの成長を促します。

2 心理的安全性を守る「コミュニケーション ション（情熱と優しさ）」

慣れない環境で働く新人にとって、過度な緊張や不安は学習効率を著しく低下させます。私たちは、「新人に余分なストレスを与えない」ことを指導の鉄則としています。

具体的には、指導者側の「話し方」や「接遇」に細心の注意を払います。威圧的な言動を慎むのはもちろんのこと、建設的な



それが、健全な成長の土壌になると信じているからです。

技術習得のプロセスには、臨床参加型教育である（CCS）を導入しています。長期間の「見学」から突如「実践」に切り出す形式とは一線を画す手法です。

新人は指導者の診療に早期から同行し、まずは介助の補助や簡単な評価の一部など、責任の範囲を明確にした上で段階的に診療に携わります。新人は「何をすればいいかわからない」という不安を感じることもなく、スムーズに患者様の治療へと入ることができま。患者様に貢献しているという実感を早期に得ることは、プロとしての自信と責任感を育む大きな原動力となります。

3 プリセプター制度とチームによる支援体制

教育体制としては、新人一人に特定の先輩が寄り添う「プリセプター制度」を

フィードバックを心掛け、失敗を責めるのではなく「次への学び」へと変換できるポジティブなコミュニケーションを徹底しています。何でも相談できる、失敗を恐れずに挑戦できるという「心理的安全性が保たれた環境」こそが、健全な成長の土壌になると信じているからです。

新人教育の最終的なゴールは、一人のプロとして患者様に責任ある提案ができるようになることです。そのため当部では、最新の知見や客観的な評価指標に基づいた「エビデンスベースのリハビリプログラム」の立案を徹底して指導しています。

4 プロとしての自覚を育む「提案力」と「発信」の重視

そして、その考えを自分の中だけに留めず、言語化して周囲へ発信する場として、「他職種カンファレンス」への参加を重要視しています。医師、看護師、MSWなど、異なる専門性を持つプロが集まる場合は、新人にとって最大の発信の場となります。ガイドラインでは、早い段階からカンファレンスでの発信を促し、リハビリの専門家としての意見をチームに還元する経験を積ませます。自らの提案がチームの治療方針に反映され、患者様の生活の質の向上につながる。この成功体験こそが、プロとしての責任感を磨き上げます。

軸としていきます。プリセプターはいわば「お世話係」として、業務の進め方はもちろん、メンタル面のサポートや職場生活の細かな悩みにも耳を傾ける存在です。加えて「チーム全体で育てる」という意識のもと、専門性を持つチームメンバーが分担して行います。複数の視点からフィードバックを受けることで、新人は偏りのない幅広い臨床観を養うことができ、指導者側もまた教えることで共に成長する「共育」のサイクルが生まれます。

5 成長の「見える化」と未来への展望

教育の成果を曖昧にせず、着実な歩みを支えるために「年間到達目標」を可視化しています。どの時期までに、どのようなスキルを習得すべきかを一覧にしたチェックリストを本人と共有し、現在地を常に明確にします。

また、定期的な「フィードバック面談」では、目標の進捗を確認するだけでなく、本人の努力や成長を具体的に承認し、次の課題を共に設定します。この積み重ねが、新人職員の自己効力感を高め、将来的に当法人を支えるリーダーへと育っていくための確かな足掛かりとなります。セラピストがセラピストとしてプライドを持って活躍できる職場環境を提供し続けたいと考えます。直近5年間で入職3年以内の離職は0人と言う結果も得ています。

リハビリ部は、この教育体制を通じて、患者様お一人おひとりに寄り添い、最善の医療を提供できる人材を輩出し続けます。新人が安心して学び、プロとして羽ばたいていけるこの環境こそが、私たちの誇りです。



白杵病院看護部の電子カルテを活用した業務改善の取り組み

〜電子カルテを制する者は、業務を制する〜

白杵病院連携室看護師 柴田美由紀

電子カルテとの出会い

電子カルテは、1999年の「真正性」「見読性」「保存性」の3原則策定により、初めて法的に認められました。翌2000年にはIT基本法が成立し、医療情報のデジタル化が国策として加速していきました。

私が電子カルテと出会ったのは2005年でした。当時勤めていた病院で電子カルテを導入すると発表され、プロジェクトチームを立ち上げ2年という準備期間を経て導入に至りました。その準備期間で一番に行ったのは、看護師全員に「電子カルテに望むこと」というアンケート調査でした。皆電子カルテに対する期待感が大きく、沢山の要望が書かれていました。それをまとめ、プロジェクトチームの担当に託され、電子カルテ会社とのすりあわせが始まりました。



7年に導入開始となりました。その後就職した病院、そして白杵病院でも同様に電子カルテ導入を担

当。気づけば電子カルテ担当歴22年、もはや使命であるとも思っています。

電子カルテ活用による業務効率化

電子カルテには、業務の効率化、スムーズな情報共有、保管スペース不要など多くのメリットがあります。私は看護が使うシステムの作り込みを行ってきました。目的はもちろんアナログからの脱却と業務の効率化です。労働人口そのものが減少する世の中、出るだけのことは電子カルテに移行しようという目論んでいます。

当院は2023年度から新たな電子カルテを導入しました。準備期間には、まず日頃行っているアナログ業務は何か、ワークシートを活用することで情報管理や業務管理出来る事は何かをスタッフに聞き取りをしながら模索しました。パソコンで毎日手入力をしてきた一覧表がワンクリックで出来る、手作業での業務が電子カルテで出来る、知りたい情報をまとめて一目でわかるなど、多くの業務が効率化されました。導入後も、電子カルテに移行できる業務、もっと便利になることは無いかと業務を見つめ、提案しています。有り難いことに病棟のスタッフは「それが良いかどうか、まずやってみて評価したらいいんじゃない」と、と

ても柔軟に受け入れてくれます。部署会で変更した業務を皆で評価し、導入を決定、定着化することを繰り返しています。この効率化が功を奏しているのか、当病棟の看護師の残業時間は月平均1時間を切っています。

看護DXの推進

これはあくまで私の持論ですが「電子カルテシステムを制する者は業務を制する」と思っています。世の中にはIT看護師が存在します。電子カルテの操作指導、設定変更、トラブル対応、現場の意見をシステムに反映させる架け橋となるのが業務内容です。高い買い物をして、使いこなさなければ業務の効率化は進みません。これからも貪欲に、電子カルテに移行できる業務を追求し、看護師の業務が少しでも効率化することを目指していきたく思います。



新任医師紹介



白杵病院
総合診療科 医師
ひらばやし あやな
平林 礼奈

このたび白杵病院にて常勤となりました、平林礼奈と申します。

私は大分県大分市出身ですが母方の実家が白杵市にあり、ここ白杵は幼少時より馴染み深い場所でした。大分大学病院からの派遣で週1回非常勤勤務を始めたことをきっかけに、このたびご縁あつて常勤医として仲間に入れていただけたことを大変嬉しく、光栄に思っております。

私の専門は総合内科・総合診療科です。高度な臓器専門性については各科の先生に遠く及びませんが、臓器別に囚われたいからこそ多種多様な症例経験ができることが当科最大の強みだと考えております。これまで大学病院、民間救急病院、さらには精神科病院や地域開業医での在宅訪問診療等、様々な医療機関での勤務で得た経験を活かし、この地でも医療を行うチームメイトとして信頼していただけますよう尽力してまいります。

今後ともどうぞよろしくお願いたします。



人から人へ絆で繋がっていく



豊後大野市消防本部
消防長 むなおか 宗岡 こうじ 幸二 氏

令和8年4月、新たに豊後大野市消防本部の消防長に就任された宗岡幸二さんにお話を伺いました。

宗岡さんは豊後大野市朝地町のご出身。東京で大学生活を送り、同級生の多くが民間企業へ就職するなか、「地元で働きたい」という思いから公務員試験を受験し、平成2年4月に現竹田市消防本部に採用されました。

平成14年に救急救命士の資格を取得。諸先輩方の指導を仰ぎながら、救命士の質の向上および後進の育成に尽力されてきました。

豊後大野市の救急事案の中には市外の医療機関へ搬送されるケースもあることから「豊後大野市で救急医療を完結させたい」という思いのもと、地域医療機関の先生方のご指導をいただきながら、より良い救急対応を目指し、日々の業務に懸命に組んできたと話してくれました。

近年、力を入れているのは、激甚化

している自然災害への対応であり、「もしもの時」に地域の安全・安心を守るため、消防本部としても様々な災害への対応力向上に努めているとのこと。人材育成や訓練の充実、資機材の整備、関係機関との連携強化など、幅広い取り組みを進めておられます。

特に「地域との結びつき」を重視し、消防団との連携強化に努めているそうです。また、近年は全国的に女性消防団員の加入が増え、その活躍の場も広がっています。豊後大野市においても、多くの方に入団していただき、地域をともに守っていききたいと話されました。

忙しい日々のなかでの趣味について伺うと、登山が楽しみのひとつになっているとのこと。「山の捜索が多い地域だからこそ、山を知るべきだ」と先輩に勧められたことがきっかけで登山を始めたそうです。登頂の達成感はもちろん、ゆっくりでも一歩ずつ着実に歩みを進め、頂上を目指す過程に魅力

を感じていると話されます。地上では見られない景色や植物との出会いも魅力の一つだそうです。正月には毎年久住山へ登り、時には祖母山や傾山にも足を運ばれているとのことでした。

地域を支えるため、日々努力を続けている宗岡消防長をはじめ、署員の皆さん。これからも市民の安心を守る大きな力となっていくことを期待しています。



地域とともに ～連携室の新たなスタート～

連携室は、患者さんや地域の医療機関のみならず、つながりを大切にしながら、安心して医療を受けられる環境づくりを支えています。

今年度は4名の新しい仲間を迎えました。それぞれの経験や得意分野を活かしながら、より身近な存在であり続けられるよう、チーム一同取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いたします。



白杵病院 連携室

TEL : 0972-83-8103
FAX : 0972-83-8104



帰巖会みえ病院 地域連携室

TEL : 0974-22-0235
FAX : 0974-22-3335

豊後大野エリア



帰巖会みえ病院
〒879-7111
豊後大野市三重町赤嶺1250番地1
TEL : 0974-22-2222



介護老人保健施設 泉の里
〒879-7111
大分県豊後大野市三重町赤嶺1254番地1
TEL : 0974-22-7885



ケアホーム青いみちIKI本館
〒879-7111
大分県豊後大野市三重町赤嶺1259番地
TEL : 0974-26-4170



ケアホーム青いみち
IKIおれんじ館
〒879-7111
大分県豊後大野市三重町赤嶺1259番地
TEL : 0974-22-0102



あさじ町クリニック
〒879-6222
大分県豊後大野市朝地町朝地906番地7
TEL : 0974-64-1234



清川巡回診療所
〒879-6903
大分県豊後大野市清川町砂田1877番地3
TEL : 0974-35-3561

白杵・大分エリア



白杵病院
〒875-0023
白杵市江無田1154番地1
TEL : 0972-83-8100



ケアホーム竹あかり
〒875-0023
白杵市江無田1154番地1
TEL : 0972-83-8110



大嶋医院
〒879-7501
大分市竹中2666番地
TEL : 097-597-0015